

第1章 理念・目的

| 点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | 現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください | 評価 | | 発展計画 | | | 根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに |
|---|--|-------------------------|----------------------|------------------------------------|--|----------------------|---|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | (中長期的対応) H列にあれば記述 | |
| (1) 文学研究科の理念・目的は適切に設定されているか | | | | | | | |
| a ◎大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。 ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること。 【約500字】 | 文学研究科の理念は、「教育・研究に関する年度計画書」において、「人類の歴史と精神文化の研究を通して、豊かで安定した社会の実現に寄与し貢献する」という創立以来の基本理念を堅持しつつ、「実証的でありつつ自由闊達で清新な研究を通して高度な専門知識を備えた研究者、教育者の養成と教養人の育成」を人材像として掲げ、カリキュラム改革への不断の努力とPDCAサイクルに基づく組織的取り組みを進めている【1-16-1：1～2頁】。文学研究科の目的は、「多角的な人文科学の基礎科学を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与すること」として「人材養成その他教育研究上の目的」を大学院学則別表4に規定している【1-16-2】。さらに9専攻6専修ごとに「人材養成その他の教育研究上の目的」を別表4に定めている【1-16-2】。 | | | | | | ①現状の説明 資料1-16-1 2015年度教育・研究に関する長期・中期計画書 文学研究科 1～2頁 資料1-16-2 明治大学大学院学則別表4 |
| b ●当該大学、学部・研究科の理念・目的は、建学の精神、目指すべき方向性等を明らかにしているか。 【約100字】 | この目的に沿って「一層高度な専門的知識と問題究明への手法を修得した、実践力を備えた研究者、教育者、教養人」の育成を目指しており、将来的な方向性も明らかにしている。 | | | | | | ①現状の説明 資料1-16-1 2015年度教育・研究に関する長期・中期計画書 文学研究科 |
| (2) 文学研究科の理念・目的が、大学構成員（教職員及び学生）に周知され、社会に公表されているか | | | | | | | |
| a ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること 【約150字】 | 理念・目的は、博士前期・修士・博士後期共に大学院便覧【1-16-3】、ガイドブック【1-16-5】、ならびにシラバス【1-16-4】に明記することで学生、教職員及び外部（受験生を含む）に周知している。 | | | | | | ①現状の説明 資料1-16-3 2014年度大学院便覧（文学研究科等）（抜粋）、82～86頁 資料1-16-4 2014年度大学院履修の手引き文学研究科（大学院シラバス文学研究科 抜粋）、6～8頁 資料1-16-5 2015年度明治大学大学院ガイドブック、78～79頁 |
| (3) 文学研究科の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか | | | | | | | |
| a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】 | 理念・目的の適切性の検証について、毎年度、「教育・研究に関する年度計画書」の作成時に、社会情勢や学生の学修実態に即して見直しを行っている。「年度計画書」は、「理念・目的」の章を含め、各章ごとに「研究科執行部」が分担して原案を作成し、執行部（案）を「研究科委員会」で審議承認する手続きとなっている。なお、年度計画書は、大学基準協会の定める大学基準に基づき章立てされているため、第1章で「理念・目的」を定めており、毎年度、検証することとなっている。2014年度については、5月26日の研究科委員会において、理念・目的を検証した「長期・中期計画書」及び「年度計画書」を承認した【1-16-6】。 また検証プロセスとしては、修了生に向けて大学院全体でアンケートを実施している。 | | | | | | 資料1-16-6 2014年度第2回文学研究科委員会議事録、2014年5月26日開催、審議事項1「2015年度文学研究科教育・研究に関する年度計画書について」 |

第3章 教員・教員組織

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|---|--|--|----------------------|--|--|------|---|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | | (中長期的対応) H列にあれば記述 |
| ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | | | | | | | |
| (1) 文学研究科として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか | | | | | | | |
| a | ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】 | 本研究科が定める教員像ならびに教員組織の編制方針は、大学が毎年度定める「学長方針」や「教員任用の基本計画」に示された教員像に基づき、2014年度についても、「2015年度 教育研究に関する長中期計画書・年度計画書」における「教員・教員組織」における方針および方策に基づき、研究科委員会で承認することで共有している【3-16-1】【3-16-2】。 なお、採用人事が学部主体である現状ではあるが、大学院教員とほとんど構成メンバーが重なるため、最近の研究科教員にも採用並びに基本計画が周知されている。 | | | | | ①現状の説明 資料3-16-1 2014年度第2回文学研究科委員会議事録、2014年5月26日開催、審議事項1「2015年度文学研究科教育・研究に関する年度計画書について」、<既出1-(3)> 資料3-16-2 2015年度教育・研究に関する長期・中期計画書 文学研究科、<既出1-(1)> |
| b | ◎<基準の明文化、教員に求める能力や資質の明示> 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。 【約150字】 | 専任教員の募集・任用にあたっては公募制を採り、文学研究科内規【3-16-3】には教員任用・昇進の基準を定めるとともに、教員採用時の公募要領には本学部の教員資格条件（原則として博士号を保有していること）を明示している【3-16-4～6】。 具体的には、「文学研究科教員任用基準」において、博士前期・修士課程における専攻・専修科目、研究指導担当者の任用は、(1) 本学の専任教員で博士の学位を有する者、(2) 本学の専任教員で専門分野に関する著書（単著）、もしくは3編以上の学術論文を有する者。但し、論文は専門分野の出版物に掲載された論文を1編以上有すること、(3) 文学研究科委員会が(2)と同等以上であると認めたと明記されている。また、博士後期課程における研究指導担当者の任用は、博士前期課程の研究指導担当者として原則として2年以上の経験を有し、次の各号のいずれかに該当するものと定めている。(1) 本学の専任教授、専任准教授で博士の学位を有する者、(2) 本学の専任教授、専任准教授で専門分野に関する著書（単著）、もしくは5編以上の学術論文を有する者。但し、論文は専門分野の出版物に掲載された論文を2編以上有すること、(3) 文学研究科委員会が(2)と同等以上であると認めたと明記されている。 | | | | | ①現状の説明 資料3-16-3 文学研究科教員任用基準（申合せ） 資料3-16-4 文学部史学地理学科アジア史専攻専任教員公募（2013年6月公開） 資料3-16-5 文学部臨床心理学専攻専任教員公募（2013年6月公開） 資料3-16-6 文学部教職課程専任教員公募（2013年6月公開） |
| c | ◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上で必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。 【約300字】 | 研究科長及び大学院委員が主体となり、研究科委員会を毎月定期的に開催している。また15名の専攻主任及び専修責任者から構成される専攻主任・専修責任者会議や4名の委員から成る拡大奨学金委員会を必要に応じて開催し、各種課題の解決に取り組んでいる【3-16-7・8】。 特任教授（3名）は、「複眼的日本古代研究」の人材育成プログラム担当で、専任教員スタッフと共同で授業ならびにその運営に当たること、方針の統一性を確保している【3-16-9・10】。 | | | | | ①現状の説明 資料3-16-7 2014年度大学院各種委員会委員（文学研究科技幹） 資料3-16-8 2014年度文学研究科専攻別担当者一覧表 資料3-16-9 複眼的日本古代学研究所の人材育成プログラム ニューズレター第14号（2013年11月30日発行） 資料3-16-10 複眼的日本古代学研究所の人材育成プログラム ニューズレター第15号（2014年3月25日発行） |

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 |
|---|---|---|---|--|---|--|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 | |
| ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の 達成状況を評価する項目です。 | C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください | | | | | Alt+Enterで箇条書きに |
| (2) 文学研究科の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか | | | | | | |
| 教員の編成方針に沿った教員組織の整備 | | | | | | |
| a | ◎当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令(大学設置基準等)によって定められた必要数を満たしていること。特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること(設置基準第7条第3項) 【約400字】 | 文学研究科は9専攻(日本文学, 英文学, 仏文学, 独文学, 演劇学, 文芸メディア, 史学, 地理学, 臨床人間学)から構成されている。博士前期課程及び博士後期課程における大学院設置基準上の必要教員数は、いずれも日本文学専攻5名, 英文学専攻5名, 仏文学専攻5名, 独文学専攻5名, 演劇学専攻5名, 史学専攻7名, 地理学専攻7名, 臨床人間学専攻6名である。なお, 修士課程のみ設置の文芸メディア専攻は5名である。 博士前期課程の担当専任教員は日本文学専攻9名, 英文学専攻10名, 仏文学専攻7名, 独文学専攻6名, 演劇学専攻5名, 史学専攻21名, 地理学専攻7名, 臨床人間学専攻18名であり, 修士課程の文芸メディア専攻は6名(各専攻の研究指導教員数も同数)である。また, 博士後期課程の担当専任教員は日本文学専攻7名, 英文学専攻9名, 仏文学専攻7名, 独文学専攻5名, 演劇学専攻5名, 史学専攻15名, 地理学専攻6名, 臨床人間学専攻11名(各専攻の研究指導教員数も同数)である【3-16-11:表2】。 文学研究科担当教員の年齢構成は, 約7割が51歳以上で占められている【3-16-11:表11】。 文学研究科では専攻が多いため, 設置基準上の必要教員数の確保に常に頭を悩ませている。おりしも地理学専攻では2名, 演劇学専攻では1名の教員が不足する事態もあったが, 2013年度中に他研究科からの移籍, 新規授業担当人事により充足された。今後は, 教員不足が発生することのないよう, 教員の年齢構成を踏まえて中長期的な視点から年度計画書において文学研究科における教員任用計画を立案, これを通じて要員確保を目指すこととしている。 | | | | 資料3-16-11 明治大学データ 表2 表11 |
| b | ◎方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600~800字】 | 専兼比率は約86%を占め, 専任教員の担当比率は高く推移している。一方, 特に臨床心理学専攻では, 専任教員は全員臨床心理士の資格を有している。また兼任教員も臨床心理学関係科目の担当者は全員, 臨床心理士又は医師の有資格者であり, 経験の豊富な実務家を講師として任用している。また2014年度は, 高麗大学から2名の教員を客員教授として迎え, 総合文学研究, 総合史学研究, 或いは文化継承学等を担当している。この他にも3名の専任教員が文学研究科の授業を担当し, 学際的な内容の指導を行っている。 | 専兼比率は十分高いと考える。特任教員3名の配置は, 特に学際的内容の指導において効果的に機能している。 | | 特にさらなる国際的展開を専任と共同で担えるような兼任ならびに客員の比率をもう少し上げて構わないのではないかと考える。法人に働きかけていきたい。 | |
| 教員組織を検証する仕組みの整備 | | | | | | |
| c | ●教員組織の適切性を検証するにあたり, 責任主体・組織, 権限, 手続を明確にしているか。また, その検証プロセスを適切に機能させ, 改善につなげているか。 【600~800字】 | 研究科の執行部として, 「教育・研究に関する年度計画書」において教員・教育組織に関する長中期計画を策定している。「年度計画書」の策定にあたっては, 自己点検・評価結果などを参考としながら教員・教員組織を検証し, その編制方針の見直しを行い, 研究科の最高意志決定機関である研究科委員会で承認を得ている【3-16-1】。 | | | | ①現状の説明 資料3-16-1 2014年度第2回文学研究科委員会議事録, 2014年5月26日開催, 審議事項1「2015年度文学研究科教育・研究に関する年度計画書について」<既出1-(3)> |

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|---|---|--|----------------------|--|--|---------------------------|---|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | | (中長期的対応) H列にあれば記述 |
| ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の 達成状況を評価する項目です。 | C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください | | | | | Alt+Enterで箇条書きに | |
| (3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか | | | | | | | |
| a | <p>●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。 【400字】</p> | <p>教員任用の基準等については、「文学研究科教員任用基準（申合せ）」及び「文学研究科委員会において審議する教員任用人事の取扱内規」「文学研究科人事審査委員会内規」に基づき、大学院の授業を担当する条件を定め【3-16-3】【3-16-12～13】、具体的には「文学研究科教員任用基準（申合せ）」において、博士前期・修士課程における専攻・専修科目、研究指導担当者の基準を定めている。なお、専任教員の任用は原則として文学部に採用人事権があるため、学部の公募要領において、文学研究科の教員資格条件である「原則として博士の学位を有すること」を明示しており、適正に運用されている【3-16-4～6】。なお、専任教員の昇格についても、学部教授会で決定されることとなっているなど、大学院での教育内容が、学部の人事に左右される面もあるが、学部執行部と研究科執行部、学部教授会と研究科委員会との密接な連絡調整により、齟齬は起きていない。</p> <p>本研究科担当教員の資格は、「文学研究科教員任用基準（申合せ）」に基づき、特に博士後期課程においては原則として准教授以上とし、そのための審査手続きは研究科委員会を経て、大学院委員会において承認されており、適切性・透明性を担保されている。</p> | | | | | <p>①現状の説明 資料3-16-3 文学研究科教員任用基準（申合せ） 資料3-16-12 文学研究科委員会において審議する教員任用人事の取扱内規 資料3-16-13 文学研究科人事審査委員会内規 資料3-16-4 文学部史学地理学科アジア史専攻専任教員公募（2013年6月公開） 資料3-16-5 文学部臨床心理学専攻専任教員公募（2013年6月公開） 資料3-16-6 文学部教職課程専任教員公募（2013年6月公開）</p> |
| (4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか | | | | | | | |
| 教員の教育研究活動等の評価の実施 | | | | | | | |
| a | <p>●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】</p> | <p>教育・研究活動の活性化に資する業績評価については、教員の研究・教育活動は大学全体でデータベース化されており、インターネットを通じて閲覧することができる【3-16-14】。専任教員の採用と昇格、兼任教員の採用の際に、当該教員の履歴と業績を研究科委員に開示し、各教員はそれに基づいて審査の是非の判断を行っている。</p> | | | | | <p>①現状の説明 3-16-14 明治大学専任教員データベース URL:http://rwdb2.mind.mieiji.ac.jp/scripts/webssearch/</p> |
| 教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性 | | | | | | | |
| b | <p>●教育研究、その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。</p> <p>（※）社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動。『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準4」(3)教育方法で評価します。 【600～800字】</p> | <p>大学院全体のFDの研修について、2014年4月26日の「大学院教育懇談会」には文学研究科から、兼任2名、研究科役職者2名の計4名が参加した。本懇談会では、「教育・研究上の著作権問題について」と「大学院生の指導について（学生相談室の視点から）」という2つのテーマについての講演を聞き、大学院生に対する研究指導の在り方などの大学院特有の教育上の課題について、専任・兼任教員問わず大学院授業担当者が問題点を共有した【3-16-15】。</p> <p>なお、後者は特に、大学院学生指導におけるメンタル面での問題意識の共有化を図ることを目的として開催されるものである。学生相談室の視点から講師を招き、講演・質疑応答を交え、情報を交換し、大学院の教育理念・人材育成の目的等を再確認するとともに、大学院生の研究の動機付けを促進する指導の質を高めることを目的とするものである。</p> | | <p>大学院全体のFD研修を有効に活用するとともに、研究科独自のFDを充実させる必要がある。また院生協議会の代表と、教育・研究環境の向上について、協議の機会を設ける必要がある。この点については、研修を設けた以上のシステム上の改善が昨年度から見られていない。</p> | <p>大学院全体のFD研修の成果を確実に共有することを工夫すると同時に、研究科のFD委員会の研修を企画する。また院生協議会の代表と文研執行部との間で、教育・研究環境の向上を目指す協議会を開催する。</p> | <p>研究科のFD委員会の研修を毎年行う。</p> | <p>①現状の説明 資料3-16-15 2014年度大学院教育懇談会次第</p> |

第4章 教育内容・方法・成果 (1)教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|--|---|---|----------------------|--|---|------|--|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 | | |
| ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | | | | | | | |
| (1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか ※全文記載は不要です。根拠資料でご提示ください。 | | | | | | | |
| a | ◎理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件・修了要件)等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】 | 【博士前期課程・修士課程】 教育目標は、大学院学則別表4に「人材養成その他教育研究上の目的」として、「多角的な人文科学の基礎科学を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与すること」を掲げている【4(1)-16-1】。この教育目標を実現すべく、学位授与方針として、「多角的な人文科学の基礎科学を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与することが出来る人材」の輩出を目指している【4(1)-16-2・5】。そのために、「学位取得のためのガイドライン」にある「学位論文に求められる要件」に基づき適切に論文指導をして、修士(文学、史学、地理学または人間学)の学位を授与しており、教育目標と学位授与方針は整合している【4(1)-16-2~3】。 【博士後期課程】 教育目標は、大学院学則別表4に「人材養成その他教育研究上の目的」として定めている【4(1)-16-1】。学位授与方針は、博士の学位を取得するに足る者の要件として、「当該分野での研究の国際的水準に達し、かつ研究者として今後自立して活動でき、そのための知識、語学力、思考力、目的遂行力を備えた資質及び能力」や「後進の研究者たちや他の人々と向き合ってみずからの研究成果を伝える資質や指導力」を備えていることである【4(1)-16-2・5】。この要件を満たした学生に対し、「学位取得のためのガイドライン」にある「学位論文に求められる要件」に基づき適切に論文指導をして、博士(文学、史学、地理学または人間学)の学位を授与しており、教育目標と学位授与方針は整合している【4(1)-16-2・4】。なお2009年度入学者から「特別演習」を設け、学術成果を単位化し、12単位取得をもって学位請求資格を与えるという制度運用を開始している【4(1)-16-4】。 | | | | | ①現状の説明 資料4(1)-16-1 明治大学大学院学則別表4 資料4(1)-16-2 2014年度大学院便覧(法学研究科, 商学研究科, 政治経済学研究科, 経営学研究科, 文学研究科, 情報コミュニケーション研究科, 教養デザイン研究科), 85~86頁, <既出1-(1)> 資料4(1)-16-3 修士学位取得のためのガイドライン 資料4(1)-16-4 博士学位取得のためのガイドライン 4(1)-16-5 文学研究科「学位授与方針」:URL http://www.meiji.ac.jp/dai_in/arts-letters/policy/graduate_dp.html |
| (2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか ※全文記載は不要です。根拠資料でご提示ください。 | | | | | | | |
| a | ◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定していること。 【約600字】 | 学位授与方針に示した学習成果を達成するため、教育内容や教育方法の基本的考え方を明らかにした教育課程の編成・実施の方針を研究科委員会において定めている【4(1)-16-2~4】。 【博士前期・修士課程】 「現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与する能力を実現する」という目的を達成するために、第一に各専攻・専修での学部課程での学習、実習成果をさらに発展させつつより深い学識を身につけさせることで、先端的な専門知識への道を開き示すと同時に、他方、苦手な分野では基礎的な学習と作業へと立ち戻らせ、また、「総合文学研究」、「総合史学研究」、「特別講義」、「学術講演会」などを通じて専門外の多様な知識にも広く触れさせる。そのために客員教授、特任教授等の制度も活用する。第二に、各専攻によっては早期の長期留学を奨励して、そのための実践的語学演習を提供している。これらの方針を踏まえ、研究指導においても、修士学位論文の執筆についてはきめ細かな指導を行い、中間発表などで口頭発表、論文作成の基礎習得を重視した指導体制を構築している。 【博士後期課程】 「専門的に研究に携わる研究者として豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化的教養と精緻な科学的認識を会得すること」を目指し、各専門分野において、自己の研究を客観的に位置づけ、その意義、成果と問題点を世界的水準で認識し、それについて内外の研究者たちと闊達に議論でき、また、国際シンポジウムなど、研究の国際的協力体制を築くことができる能力を、専攻横断的かつ受講者参加型の「文化継承学」などを通じて養成する。また、学内外の競争的資金による教育研究活動(GP)や大型共同研究にも積極的に参加して経験を積み、高度な学問的研鑽の社会的責務を宿した知的倫理性を養成している。 | | | | | ①現状の説明 資料4(1)-16-2 2014年度大学院便覧(法学研究科, 商学研究科, 政治経済学研究科, 経営学研究科, 文学研究科, 情報コミュニケーション研究科, 教養デザイン研究科), 85~86頁, <既出1-(1)> 資料4(1)-16-3 修士学位取得のためのガイドライン 資料4(1)-16-4 博士学位取得のためのガイドライン 4(1)-16-6 文学研究科「教育課程編成・実施方針」:URL http://www.meiji.ac.jp/dai_in/arts-letters/policy/graduate_cp.html |
| b | ●学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は連関しているか。 【約200字】 | 学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の連関については、学位授与方針で定めた目的を実現するために、教育課程の編成・実施方針において、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与する能力を実現するため、その研究意義、成果と問題点を世界的水準で認識し、また専攻横断的な学問的研鑽を宿した知的倫理性を備えるカリキュラムを構成しており、両方針の連関は適切である。 | | | | | |

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|--|--|--|----------------------|--|---|------|--|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 | | |
| (3) 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員及び学生等）に周知され、社会に公表されているか | | | | | | | |
| a | <p>◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】</p> | <p>教職員・学生並びに受験生を含む社会一般に対しては、教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針について、大学院便覧やシラバスに明示し【4(1)-16-7・8】、また、ホームページでも公表している【4(1)-16-5・6】。</p> | | | | | <p>①現状の説明 資料4(1)-16-7 2014年度大学院便覧（法学研究科、商学研究科、政治経済学研究科、経営学研究科、文学研究科、情報コミュニケーション研究科、教養デザイン研究科）、82～84頁 資料4(1)-16-8 2014年度文学研究科シラバス、6～8頁 4(1)-16-5 文学研究科「学位授与方針」:URL http://www.meiji.ac.jp/dai_in/arts-letters/policy/graduate_dp.html 4(1)-16-6 文学研究科「教育課程編成・実施方針」:URL http://www.meiji.ac.jp/dai_in/arts-letters/policy/graduate_cp.html</p> |
| (4) 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか | | | | | | | |
| a | <p>●教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】</p> | <p>学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の検証は、毎年の自己点検・評価報告書や「年度計画書」の作成時に確認を行い、「研究科委員会」での審議承認の際の参考としている。2013年度には3つの方針についてよりわかりやすい表現にするための見直しを行っている【4(1)-16-9】。</p> | | | | | <p>①現状の説明 4(1)-16-9 第6回文学研究科委員会会議事録（2013年10月28日開催）、審議事項6「文学研究科3ポリシーの改正について」</p> |

第4章 教育内容・方法・成果 (2) 教育課程・教育内容

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|--|---|---|----------------------|------------------------------------|--|------|--|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 | | |
| <p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p> <p>0列の点検・評価項目について、必ず記述してください</p> | | | | | | | |
| <p>(1) 教育課程の編成方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか</p> | | | | | | | |
| <p>必要な授業科目の開設状況</p> | | | | | | | |
| a | ◎CPIに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【600字～800字程度】 | <p>【博士前期課程・修士課程】</p> <p>本研究科は、9つの専攻（日本文学、英文学、仏文学、独文学、演劇学、文芸メディア、史学〔日本史学、アジア史、西洋史学、考古学の4専修〕、地理学、臨床人間学〔臨床心理学、臨床社会学の2専修〕）から構成されている。いずれの専攻・専修においても「多角的な人文科学の基礎科学を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与すること」を目的とし、「現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与する能力を実現する」という教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を設置している【4(2)-16-1：表17】。</p> <p>日本文学専攻、英文学専攻（「英文学」「米文学」「英語学」「英語教職」各専修）、仏文学専攻、独文学専攻、演劇学専攻、文芸メディア専攻は、必要単数は全て32単位、必修単位数はそのうち8単位である。また「英語教職」専修は臨床社会学専修科目（教育関係）を4単位以上習得することを求めている。</p> <p>史学専攻（「日本史学」「アジア史」「西洋史学」「考古学」各専修）、地理学専攻の必要単位数は32単位、そのうち必修単位は16単位である。必修単位数が多いのは、専門性の高い講義が含まれているからである。</p> <p>臨床人間学は以下の通り：「臨床心理学」専攻は必要単位数38、専攻必修単位数8、専修必修単位数20、選択必修単位数10；「臨床社会学」専修は必要単位数36、専攻必修単位数8、専修必修単位数2、選択必修単位数16である【4(2)-16-2:87～108頁】【4(2)-16-3:33～55頁及び313～317頁】。この他にも臨床人間学専攻臨床心理学専修は、日本臨床心理士資格認定協会より臨床心理士指定大学院として承認されており、カリキュラムについても同協会より認可を得ている【4(2)-16-4】。専門性と専修横断性を兼ね備えたプログラムとなっている。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>「専門的に研究に携わる研究者として豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化的教養と精緻な科学的認識を会得すること」を目指し、各専門分野において、自己の研究を客観的に位置づけ、その意義、成果と問題点を世界的水準で認識し、それについて内外の研究者たちと関連に議論でき、研究の国際的協力体制を築くことができる能力を、専攻横断的かつ受講者参加型の「文化継承学」などを通じて養成する。また、学内・学外のG P、大型共同研究にも積極的に参加して経験を積み、高度な学問的研鑽の社会的責務を宿した知的倫理性を養成している。これらの方針を踏まえ、研究指導においても、指導教員を中心としながら、当該分野での最も困難な問題、それを解明するための最も高度な知識、最も先端的な方法を提示した指導体制を構築している。博士後期課程の必要取得単位として研究論文指導I～III、特別演習A～Fあわせて24単位を要する【4(2)-16-3:313～317頁】。</p> <p>【博士前期・博士後期課程横断】</p> <p>日本文学専攻・史学専攻（日本史学・考古学専修）では「複眼的日本古代学研究」の人材育成プログラムを設け、複数教員による専攻専修横断型の講義科目として「総合文学研究」、「総合史学研究」、およびフィールドワークとして「総合地域（特殊）研究」を設置し、各専攻・専修の学生が互いの研究分野や方法論を認識することでさらに専門性を培っていく場として機能させている。</p> | | | | | ①現状の説明 資料4(2)-16-1 明治大学データ表17 4(2)-16-2 2014年度大学院便覧（文学研究科他）、87～108頁 資料4(2)-16-3 2014年度文学研究科シラバス、33～55頁及び313～317頁 資料4(2)-16-4 大学院研究科専攻（コース・領域）指定継続承認について（通知）（財団法人日本臨床心理士資格認定協会） 4(2)-16-5 公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会「指定大学院・専門職大学院一覧」 http://fjcbp.or.jp/daigakuinchiran/ |
| b | ◎コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていること。 【修士・博士】 【200～400字程度】 | <p>【博士前期・修士課程】</p> <p>各専攻専修とも、分野特性に応じ32～38単位を修得することが義務付けられ【4(2)-16-1】、コースワークの「講義科目」「演習科目」を並立させ科目を設置している。特に地理学・臨床人間学専攻では、講義・演習科目に加え、「地理学フィールドワーク」や「臨床心理実習」「臨床心理査定演習」「臨床心理基礎実習」等の実習科目を設置し、コースワークとリサーチコースのバランスが取れている。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>各専攻専修とも、分野特性に応じ研究論文指導及び特別演習より各12単位、合計24単位の修得が義務付けられている【4(2)-16-1】。さらに積極的に前期課程の授業・コースワークに博士後期課程の学生が中心となって参加し、学生相互で刺激し合う場となっている。その成果を年度ごとに論文としてまとめる指導も行っている。たとえば、「文化継承学」の科目については、発表、技能、討論を重ねつつ、研究視野の拡大に努めている。</p> | | | | | ①現状の説明 資料4(2)-16-1 明治大学データ表17 |
| <p>順次性のある授業科目の体系的配置（履修体系図やコース系統図の明示、科目相関図、履修モデル、適切な科目区分など）</p> | | | | | | | |
| c | ●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。（学生の順次的・体系的な履修への配慮） 【約400字】 | <p>CPIに基づいて、便覧【4(2)-16-2】、シラバス【4(2)-16-3】上で授業科目の配当年次を示しており、新入生には4月の入学ガイダンス時に時間を取り、履修条件を周知している。</p> | | | | | ①現状の説明 資料4(2)-16-2 2014年度大学院便覧（文学研究科他）、87～108頁 資料4(2)-16-3 2014年度文学研究科シラバス、33～55頁及び313～317頁 |

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|---|---|---|--|---|---|------|--|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 | | |
| <p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p> | | | | | | | |
| b | | | | | | | |
| d | <p>●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか</p> | <p>カリキュラムの適切性の検証については、文学研究科の教育課程の編成・実施方針に基づき、必要に応じ「執行部」と「専攻専修責任者」の協働で、カリキュラムの検討及び見直しを行っている。執行部主導の下、「総合文学研究」「総合史学研究」では、カリキュラム及び授業担当者の見直しをしている【4(2)-16-6】。在学生のニーズが乏しく、未開講が続いている「文化継承学III」や「総合史学研究VI」等のカリキュラム上での運用について、現在執行部にて検討を進めている。また2013年度からのカリキュラム改正に向けて、臨床人間学専攻臨床社会学専修の演習科目を「臨床社会学演習」と「臨床教育学演習」に二分することにより、当該専修の大学院学生のニーズに見合う形でカリキュラムを改定した。</p> | <p>従来未開講であった「文化継承学III」「総合史学研究VI」については、2014年度から開講し、課題の改善を行った。</p> | <p>今後もカリキュラムの適切性の検証を図り、文学研究科の教育課程の編成・実施方針に基づき、必要に応じ「執行部」と「専攻専修責任者」の協働で、カリキュラムの検討及び見直しを行う。</p> | | | <p>①現状の説明 資料4(2)-16-6 文学研究科2014年度「総合文学研究」「総合史学研究」担当者一覧</p> |
| <p>(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか</p> | | | | | | | |
| <p>教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容（何を教えているのか）</p> | | | | | | | |
| a | <p>●何を教えているのか、どのように教育目標の実現を図っているのか。 【1200字程度】</p> | <p>【博士前期課程】 日本文学専攻は、各時代別の文学及び時代を限定しない国語学を研究するための科目を中心とし、さらに日本文学史・日本文学特殊講義・漢文学など関係領域科目を設置している。英文学専攻は、文学では、1500年代から現代に至るまでの演劇、小説、批評を中心としたイギリス文学、アメリカンルネサンス期から、現代に至るまでの小説や詩の他、多岐にわたるジャンルのアメリカ文学、並びに身体論、ジェンダー論、文化論などの理論を、英語学では、統語論、形態論、語用論、認知言語学、意味論、音声学・音韻論、文体論、語彙論、辞書学、日英対照言語学などを研究している。仏文学専攻は、フランス文学、文法論的研究をはじめ、ルネサンス、近代の散文の分析、近・現代の詩の解説を対象とし、フローベール、プルースト等も研究している。独文学専攻は、近現代文学を研究対象とし、思想、芸術、政治等の関わりで文学現象を考察できる視点をもつよう指導しており、語学能力向上のための徹底した訓練も実施している。演劇学専攻は、日本演劇と西洋演劇について広い視野を持って歴史的、論理的に研究する基礎を築きつつ、専門領域における探求を深めるよう指導している。文芸メディア専攻は、思想から風俗に至る文化的諸状況、特にメディア状況と文芸テキストの関係を総合的に考究する。具体的にはメディアと大衆文化、都市・都市文化と文学、源氏物語をはじめとする古典文芸の受容、仏教思想・国学思想と文芸、近世文学と近世メディア、出版史・出版研究、文芸思潮研究、創作特論、翻訳研究、表象文化論などを教えている。史学専攻は社会的存在としての人間が営々と培ってきた諸国の歴史と、その結果もたらされたものの分析、さらには各時代の特質などを研究対象に設置し、日本史学専攻の対象は古代から現代史までの幅広い領域であり、アジア史専攻はアジア全体の全時代を、西洋史学専攻は西欧や国際関係史など幅広い領域での研究を、考古学専攻は東アジアでの日本の位置づけについてを研究している。地理学専攻は、地形・気候・環境などの自然地理分野、経済・社会・文化などの人文地理学分野、国内外を対象とした地域研究等を行っている。臨床人間学専攻は、「社会、歴史、政治の文脈を見失わない臨床心理学専攻」と「心、身体、倫理への視座を手放さない臨床社会学専攻」による実践学の発展を目指す。【4(2)-16-2・3:33～55頁、313～317頁】</p> <p>【博士後期課程】 各専攻とも各院生の研究主題に応じ、「博士学位取得のためのガイドライン」に基づいて、指導教員による研究指導の下、博士論文執筆へと導いている【4(2)-16-7】</p> | <p>現在の専任・兼任講師では十分及ばない分野に関しては、学外・国内外の研究者を招いて「特別講義」を実施し、教育内容の拡充を図っている。</p> | <p>「特別講義」を現在合計8件実施している。教育効果が認められるので、これを全専攻・専修（計13件）で実施出来るような運用を図りたい。</p> | | | <p>①現状の説明 資料4(2)-16-2 2014年度大学院便覧（文学研究科他）、87～108頁 《既出4(1)-1-14》 資料4(2)-16-3 2014年度文学研究科シラバス、33～55頁及び313～317頁 資料4(2)-16-7 博士学位取得のためのガイドライン 〈既出4(1)-16-4〉</p> |

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|---|---|---|--|--|---|------|--|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 | | |
| <p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p> | | | | | | | |
| <p>特色ある教育プログラムの内容とその効果（当該研究科等固有のプログラムやGP採択事業など）</p> | | | | | | | |
| b | <p>●特色、長所となるものを簡潔に記述してください。 【200字～400字程度】</p> | <p>文学研究科の特色あるプログラムとして、「文化継承学Ⅰ～Ⅲ」という専攻・専修横断的な科目が2004年度から始まっている。これは、博士後期課程学生と教員が共に発表・報告・討議を通じて、知の横断を目指す学際的科目である。 2008-10年度に「複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム」が文部科学省のGPに採択された。そしてその文部科学省支援期間後も、明治大学では独自に同路線での教育を展開している。ここでの教育活動は、「明治大学日本古代学教育センター」「明治大学古代学研究所」における研究成果と両輪をなしている。本プログラムでは、「大学院学生を交えた研究会」、「シンポジウムの開催」、「フィールドワークの実施」、「冊子の発刊」など精力的に活動した。この他にも、「高麗大学」、「中国社会科学院」を初ははじめとする韓国、中国などアジア諸国の大学との交流も次第に充実しており【4(2)-16-8】、2013年度の「総合地域研究」では、海外フィールド実習形式で海外大学生と交流する「高麗大学校プログラム」、「中国プログラム」などを実施し、本学より合計20名の教員・学生が参加した。</p> | | | | | <p>①現状の説明 資料4(2)-16-8 明治大学・中国社会科学院第3次学術研究会報告集（2013年6月15日・16日開催） 資料4(2)-16-9 国際学術研究会開催ポスター、2013年10月31日～11月2日</p> |
| <p>研究科間等における国際的な教育交流の内容とその効果（研究科間協定、短期海外交流など）</p> | | | | | | | |
| c | <p>●特色、長所となるものを簡潔に記述してください。 【200字～400字程度】</p> | <p>研究科独自の継続的国際交流事業として2013年6月には「中国社会科学院」との学術交流会を実施したほか、2013年9月および14年1月に「高麗大学」との国際学術会議を実施した【4(2)-16-10～11】。また、2014年1月に「ストラスブール大学」と合同で、森鷗外生誕150周年を記念する国際シンポジウムを開催した【4(2)-16-12】。海外との大学院国際交流の場において、相互に研究成果の発表を示しあっている。例えば、文学研究科設置科目「文化継承学Ⅱ」での多年に亘る研究蓄積の海外発信を、欧州全体の国際交流拠点校・ストラスブール大学（近く全学協定締結）との共催により、CEEJAの全面協力を得て行われた。その成果は、論集として、刊行し、日本及び欧州全土の研究教育諸機関に配付された。 また、学内での交流については、他大学からの単位互換による履修者が2名おり、文学研究科の講義・演習科目を受講した。</p> | <p>例えば、高麗大学校等の学術交流では、良好の大学院生が研究発表を行い、司会と相互コメントをする方式を採用しており、文化環境の異なる中で相互理解が進んでいると考える。</p> | | <p>さらなる国際学術交流活動の活性化に向け、学内G P等の企画に研究科を挙げて取り組む【4(2)-16-13】</p> | | <p>①現状の説明 4(2)-16-10 高麗大学校—明治大学学術交流報告書 表紙・目次 4(2)-16-11 第四回 明治大学・高麗大学校国際学術会議 表紙・目次 4(2)-16-12 「他大学大学院との研究教育プログラム／大学院G P」報告書《文化の継承—模倣と創造》 ②評価・発展計画 4(2)-16-13 2014年度大学院学内G P採択一覧</p> |

第4章 教育内容・方法・成果 (3) 教育方法

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|--|---|--|---|---|---|--|--|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 | | |
| (1) 教育方法及び学習方法は適切か | | | | | | | |
| 教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性 | | | | | | | |
| a | ◎当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること【約800字】 | 文学研究科の授業は、大学院学則22条2項にもとづき、講義、演習、実習の授業形態が採用されている。 【博士前期課程・修士課程】 ・演習科目 第2年次までに合計8単位（地理学専攻は16単位）の演習を必修とし、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与する深い学識を身につけさせ、修士論文の作成へと導いている。 ・講義科目 史学専攻は8単位の講義を必修科目に加え、研究領域の最先端の研究動向を指導している。このほか、専攻・専修横断型の共通特修科目として「総合文学研究」「総合史学研究」「総合地域研究」が設置され、自らの専門外の多様な知識に広く触れることが可能となっている。 ・実習科目 地理学専攻に「地理学フィールドワーク」、臨床人間学専攻臨床心理学専修に「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」「臨床心理特別実習」、臨床社会学専修に「臨床社会学実習」が設置され、フィールドや学内外の施設で現場における体験的学習を通じて高度な専門知識や資格を身につけている。 【博士後期課程】 後期課程は専門的に研究に携わる研究者の養成を目標としており、学位論文作成のための指導教員による「研究論文指導」と、論文ならびに研究報告を段階的に発表していく「特別演習」を設置し、あわせて24単位を必修としている。さらに、大学院G P「複眼的日本古代学研究の人材育成プログラムと連動した「文化継承学Ⅰ～Ⅲ」など専攻横断型の共通選択科目を通じ、研究の学際的協力体制を築くことができる能力を養成している。 | | | | | ①現状の説明 資料4(3)-16-1 2014年度大学院履修の手引き 文学研究科（大学院シラバス文学研究科 抜粋）35～55頁、57～61頁、〈既出4(2)-16-13〉 |
| b | ●教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目において適切な教育方法を取っているか。【約400字】 | 【博士前期課程・修士課程】 徹底した少人数教育による「演習科目」での学習という明治大学文学部の教育方法は、大学院文学研究科においてはさらに高度化されており、各専攻・専修とも十分なる学術水準を示した論文の執筆に到達できるように指導している。 地理学専攻では「地理学合同演習」において地理学実習室内の距離計等の機器を活用した測量技法に関する指導を行っている。 考古学専攻では、明治大学博物館で演習の担当教員と学芸員が連携しつつ調査を通じた現物教育を行っている。 史学専攻日本史学専修では、日本史学研究を担当する専任教員の引率により、演習の一環として史跡や資料保存機関を巡る現地調査合宿を行っている。 臨床人間学専攻臨床心理学専修においては、本学の「心理臨床センター」が心理相談・治療を行うために設置した3面接室および2ブレイルームを活用し、大学院学生への臨床実習記録の作成指導やカンファレンス指導を行い、心理相談・治療の現場を観察・体験させている。 共通特修科目である「総合地域研究ⅡB」では、2013年度に韓国の高麗大学校との共同授業と韓国国内でのフィールド調査を実施し、学問分野横断的・学際的視野をそなえた「複眼的性」・「国際性」の育成を目指している。 【博士後期課程】 専攻横断的な研究を実施する博士後期課程科目の「文化継承学」を通じ、大学院学生・教員の学際的交流を推進している。 | 「文化継承学」の授業を通じ、各専門分野において、自己の研究を客観的に位置づけ、その意義、成果と問題点を世界的水準で認識し、それについて内外の研究者たちと関連に議論でき、また、国際シンポジウムなど、研究の国際的協力体制を築くことができる能力は着実に向上しつつある。『文化継承学論集』も第10号まで刊行された。 「心理臨床センター」を活用した「臨床心理実習」は実施回数も増加し、2012年度は臨床心理士資格試験の受験者全員が合格（全国合格率59%）、2013年度は10名中9名が合格した。 | | 参加する院生をさらに増やし、教員、院生の学際的交流を活発にさせる。「文化継承学論集」を刊行することで業績を積み、博士論文へとつなげていく。 臨床人間学専攻臨床心理学専修は今後も高い合格率を維持し、受験者全員の合格を目指す。現在設置されている科目と施設の維持を図る。 また国際性に関してはさらなる拡充を図りたい。 | | |
| c | ●履修指導（ガイダンス等）や学習指導（オフィスアワーなど）の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。【約200字～400字】 | 【博士前期課程・修士課程】 入学年次の4月に全体および専攻・専修別の新生オリエンテーションを実施し、カリキュラムや学位取得の条件、履修登録について指導を行っている。また「履修計画書」の提出を義務づけており、研究指導計画に基づく研究指導を行っている。各自の研究計画を踏まえた履修計画は、指導教員の承認を得たうえで提出するものとしている。なお、新生に対しては自らの研究業績を可視化できるよう、「大学院生研究業績調書」の提出を求め、随時更新させている。 【博士後期課程】 入学年次の4月に全体および専攻・専修別の新生オリエンテーションを実施し、「履修計画書」の提出を求めて研究指導計画に基づく研究指導を行っている。各自の研究計画を踏まえた履修計画は、指導教員の承認を得たうえで提出するものとしている。新生に対しては「大学院生研究業績調書」の提出を求め、随時更新させている。 博士学位取得は研究業績の要件と同様に詳細は専攻・専修の内規等に基づくが、原則として「博士学位取得のためのガイドライン」【4(3)-16-2】に示されたプロセスを経なければならないものとしている。 | | 学習状況の実態調査や学習実態の把握については指導教員の指導に委ねられているが、組織的な学習支援・学習相談の態勢は十分とはいえない。 | | 学習状況の実態調査や学習実態を組織的に把握するシステムならびに、組織的な学習支援・学習相談の態勢案を、執行部で検討する。 | ①現状の説明 資料4(3)-16-2 文学研究科「博士学位取得のためのガイドライン」〈既出4(1)-16-4〉 |

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|--|--|--|----------------------|--|--|---|---|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 | | |
| (修士・博士課程) 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導 | | | | | | | |
| d | <p>◎研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること(修士・博士)。 【400字】</p> <p>【博士前期課程・修士課程】 指導教員による個別の研究指導や演習・特論を通じての全体的指導とともに、専攻・専修を横断した講義も行い、研究テーマに関連する幅広い知識を得させる。専攻・専修によっては、研究内容の充実のみならず、広い視野の獲得のために、複数指導体制をとる場合もある。 1年次 各自の研究領域および関係領域における文献・資料などの検討と授業への参加を通じて、具体的な研究テーマの明確化と修士論文の構想の確定に努める。また、学会発表や学術誌への投稿も積極的に行う。 2年次 中間発表等を通じて、指導教員による個別の指導の下で研究を進め、指導教員以外からも助言を受けつつ修士論文を完成させる。 「修士学位取得のためのガイドライン」【4(3)-16-3】に従い、1年次には、各自の研究領域及び関係領域における文献・資料などの検討と授業への参加を通じて、具体的な研究テーマの明確化と修士論文の構想の確定に努める。また、学会発表や学術誌への投稿も積極的に行い、2年次には、中間発表等を通じて、指導教員による個別の指導の下で研究を進め、指導教員以外からも助言を受けつつ修士論文を完成させるよう指導している。 【博士後期課程】 指導教員が個々に緊密な連絡をとって学生の博士論文完成にいたるまで指導を行うが、専攻・専修によってはこれに加えて所属教員全体による指導体制をとる。 研究業績の要件と同様に詳細は専攻・専修の内規や慣行に基づくが、原則として以下のプロセスを経なければならない。 「修士学位取得のためのガイドライン」【4(3)-16-2】に従い、1年次には、修士論文を補完させ、学内外の学術誌への投稿を促し、博士論文提出までの3カ年の研究スケジュールを明確化させる指導を行う。また、学位請求論文に不可欠な国内外の先行研究動向の把握、少なくとも国内における研究動向と展望の把握を行わせ、これについて小論文を執筆させる。 2年次には、1年次に続き諸外国における研究動向を概観しつつ、本格的な資料収集と分析を促進させる。明らかにされた成果を学会口頭発表や学会学術誌への投稿という形で公表させる。年度末には博士論文提出有資格の可否を認定する。 3年次には、前期に修士学位請求論文中間報告を行い、予備審査を行う。予備審査で指摘された事項を補完して、指導教授の推薦を受け、専攻・専修会議が研究科委員会への学位請求の可否を判断する。そして、研究科委員会の受理を受けて、最終審査となる公開発表を行う。</p> | | | | | | <p>①現状の説明 資料4(3)-16-3 文学研究科「修士学位取得のためのガイドライン」<既出4(1)-16-3> 資料4(3)-16-2 文学研究科「博士学位取得のためのガイドライン」<既出4(1)-16-4> 資料4(3)-16-4 「学位(博士)授与報告書」2頁</p> |
| (2) シラバスに基づいて授業が展開されているか | | | | | | | |
| a | <p>◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること 【約300字】</p> | | | | | | |
| b | <p>●シラバスと授業方法・内容は整合しているか(整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握)。 【約400字】</p> | <p>教員は具体的なシラバスの記述が求められ、シラバスと授業との整合性も高まっている。「シラバスの到達目標の達成度の調査」や「シラバス通りに授業が進んだか」について、院生協議会での検討内容や院生のアンケートを利用して、各教員のシラバスと授業の整合性への意識を高めた結果である。2013年度末に実施されている修了者アンケートを実施した結果、「シラバスと授業の整合性」については86%の院生が「整合している」と答えている。また、「シラバス到達目標の達成度」については96%が「到達している」と回答している。【4(3)-16-5】</p> | | <p>大学院の研究指導の形態に見合ったシラバスのあり方についての考え方が明確とは言えない。例えば演習の時間の多くを資料・史料講読にあてている授業は多いが、その場合、学生主体の発見・討議を促進させるために、大まかな教材単位での進捗しかシラバスに記載しない方が効果が上がると考える教員も多い。</p> | | <p>大学院の研究指導の形態に見合ったシラバスのあり方について執行部と専攻専修責任者会議を開催し、検討する。各専攻専修の科目についてはそれぞれの専攻専修会議にて検討する。</p> | <p>①現状の説明 資料4(3)-16-5 2013年修了者アンケート結果【文学研究科】</p> |
| c | <p>●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的かつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】</p> | <p>シラバスは「研究科長」の責任体制のもと、各教員に全学統一書式での執筆を依頼している【4(3)-16-6】。「準備学習」の内容が記載されており、授業時間外における学生の主体的な学修が可能な内容となっている。また、修了生アンケートの結果は各研究科委員会にフィードバックされ、シラバス検証の機会となっている。</p> | | <p>シラバス内容の検証については、院生からのフィードバックは各教員に委ねられており、研究科としてシラバス検証の機会を設けていないという現状は変わっていない。</p> | | <p>シラバス検証のために、院生協議会の代表者との打合せにおいて、大学院学生からのシラバスに対するフィードバックを得るほか、その他の検証の方法について研究科として検討する。まずは、専攻・専修責任者会議での検討から始める。また、毎年度末、修了予定者に対し行っているアンケートや院生協議会との懇談会の結果をさらに有効に活用する方法を検討す</p> | <p>①現状の説明 資料4(3)-16-6 2014年度「大学院シラバス」の作成について</p> |

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|--|--|---|----------------------|--|--|---|--|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 | | |
| (3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか | | | | | | | |
| a | ◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。 (成績基準の明示、授業外に必要な学習内容の明示、ミニマム基準の設定等、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約400字】 | 【授業評価】 成績状況を詳細に把握するために GPA (Grade Point Average) 制度を導入している。同制度についてはシラバスに明記し、各講義、演習の趣旨に応じて単位認定を行っている。評価については、出席を前提として、課題(レジュメ)の提出状況(文献・資料の読み方)や発表能力(プレゼンテーション)などを観察し、研究の心構えや取り組み方などを総合的に判断している。出席点に加えて、学生の参画度、意欲も成績評価に加味している。 【修士課学位請求論文審査】 修士課程の学位請求論文の評価は、文学研究科内規に則り指導教員を主査とし、そのほかに2名の副査を設けて合計3名で審査を行っている。結果は研究科委員会にて報告し、その後学授与を決定している。 【博士学位請求論文審査】 博士後期課程の学位請求論文については、審査委員による審査・公開報告会の実施、および当該論文の受理の可否、内容と審査所見の提示、可否を専攻と研究科委員会の2段階で審査を行っている。博士学位請求論文の審査は、指導教員を主査とし、そのほかに学外者1名を含む2名の副査がつき、計3名により審査が行われる。その後研究科委員会において出席者全員による可否判定の投票結果に基づいて評価が決定される。 | | | | | 資料4(3)-16-3 修士学位取得のためのガイドライン<既出4(1)-16-3> 資料4(3)-16-3 博士学位取得のためのガイドライン<既出4(1)-16-4> |
| b | ◎既修得単位の認定を大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること。 【約100字】 | 海外留学など他大学研究科で修得した既修得単位の認定を行う際は、授業内容・授業時間・単位数等を研究科委員会で確認し、単位認定するなど適切に行っている。編入学生は募集していない。 | | | | | |
| (4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善(授業に関わるFD活動)に結びつけているか | | | | | | | |
| a | ◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約800字】 | 教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした組織的な研修・研究の機会について、研究科としては、専攻専修責任者会議や拡大奨学金委員会等を中心に教育方法や各種制度の改善に向け、適宜協議している。兼任講師及び執行部に向けての大学院教育懇談会の内容を充実させている。【4(3)-16-7】また、年に数回、院生協議会の代表と、教育・研究環境の向上について、授業改善について協議している。さらに、学部で実施している授業改善アンケートは、少人数教育の大学院ではそぐわないため実施していないが、毎年度末、修了予定者に対しカリキュラム全体に関するアンケートを実施している。 FD活動プロパーとして設定されているわけではないが、分野横断型で教員が関わる「文化継承学I~III」は、教員が相互的に教育方法に触れる良い機会となっている。事実上、相互授業参観に似た効果もたらされていると考える。 | | 少人数教育において教員と学生との距離が近い大学院において、在学生に対するアンケート等による意見聴取は、匿名であっても客観的評価に結びつかない恐れがある。 | | 毎年度末、修了予定者に対し行っているアンケートや院生協議会との懇談会の結果をさらに有効に活用する方法を検討する。 また、研修等を含む教員側の自発的な授業改善の取組みを検討し、実施していく。 | 資料4(3)-16-7 2014年度大学院教育懇談会次第<既出3-16-15> |
| b | ●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか 【約400字】 | 研究科長のもと執行部による責任体制により、教育内容・方法等の点検・評価を行うために、自己点検・評価委員会が存在する。改編・改訂が必要事項があれば、専攻・専修主任会議で検討して改善を図る。 | | | | | |

第4章 教育内容・方法・成果 (4) 成果

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|-------------------------------------|--|---|--|--|--|---|---|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「改善を要する点」に対する発展計画 | | | |
| | | | | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | | (中長期的対応) H列にあれば記述 |
| (1) 教育目標に沿った成果が上がっているか | | | | | | | |
| a | <p>●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。 【なし～400字程度】</p> | <p>【博士前期・修士課程】 「学位授与方針」に具体的到達目標としての人文科学的人間像を示している。そこに到達する手段として、学習・研究の総合的な成果となる修士論文の指導を重視しているが、これを利用して目標の達成度を確認している。文学研究科の学問分野は多岐にわたるが、論文の学術的な質に関しては、それぞれの分野の標準的な研究水準を想定して指導している。専攻によっては博士論文の審査にならって公開で研究報告会を実施している。提出後の口頭試問では、指導教員以外の2名の副査による評定を行い、評価の客観性を担保している。</p> <p>【博士後期課程】 「学位授与方針」に到達目標として、当該分野研究における国際的水準と自立した研究者たる資質・能力の獲得、さらに研究成果を広く発信しつつ後進を指導する能力の涵養をあげている。この目標は、具体的には欧米におけるPh. D.相当の学位取得を最低レベルとする能力の獲得と発揮を意味する。その成果測定は、まず原則として当該分野の学会において研究内容を講演し、査読付き論文として公表することによって行われる。なお、この具体的な手順については専攻別に「課程博士の学位取得ガイドライン」を定め、公表している。これを達成すると次の段階として綿密な指導のもとに学位請求論文を作成し、公開報告会(公聴会)を経て学外の主要な専門研究者を加えた委員会による審査を行っている。</p> | | | | | <p>①現状の説明 資料4(4)-16-1 2014年度 大学院便覧(法学研究科, 商学研究科, 政治経済学研究所, 経営学研究所, 文学研究科, 情報コミュニケーション研究科, 教養デザイン研究科), 「学位授与方針」86頁 資料4(4)-16-2 明治大学大学院 GUIDE BOOK 2015 「学位授与方針」, 79頁 4(4)-16-3 明治大学文学研究科HP 「学位授与方針」 URL:http://www.meiji.ac.jp/dai_in/arts-letters/policy/graduate_dp.html</p> |
| b | <p>◎教育目標と学位請求論文内容の整合性 ◎学位授与率、修業年限内卒業率の状況。 ◎卒業生の進路実績と教育目標(人材像)の整合性。 ◎学習成果の「見える化」(アンケート、ポートフォリオ等)の試み。 【約800字】</p> | <p>【博士前期・修士課程】 博士前期・修士課程においては、優れた研究成果を学外の学会等で積極的に発表させているが、学内においても「文学研究論集」等に投稿させ、研究科独自に「学生個々の研究業績を記入する調書」【4(4)-16-4】を学生に提出させている。日本文学専攻と史学専攻(日本史専修、考古学専修)等の複数専攻で運営している「複眼的日本古代学教育研究の人材育成プログラム」は、史学・文学・考古学横断型の特色ある科目として「総合(特別)地域研究」を設け、中でも「フィールドワーク科目群」では、高麗大学校との海外実習を行い、博士学位取得に向けて研究を促進するプログラムである。国際学術会議も開催し、研究成果は紀要『日本古代学』に公表する等の成果を上げている【4(4)-16-5、表紙・目次】。また、臨床心理学専攻では臨床心理士資格試験で極めて高い合格率を維持している。博士前期・修士課程の期限内の学位取得者は54名で、80%を超えており概ね修業年限内に修了が可能である【4(4)-16-6:表31】。進路としては57.4%が就職、25.9%が進学、16.7%はその他(留学生の帰国等)となっており、教育目標として掲げる人材を輩出している【4(4)-16-7】。</p> <p>【博士後期課程】 「学位授与方針」に「具体的到達目標」を示し、論文指導を通じながら、研究成果を学内外の学会等で発表させ、「文学研究論集」等の学内外の学術雑誌への投稿を促し、また文学部助手を担当している大学院生らによる「学術研究発表会」で研究成果を学内外からの参加者に公表している【4(4)-16-8】。なお、期限内に課程博士を取得できるよう指導しており、2013年度の課程博士は日本文学専攻4名、史学専攻1名、臨床人間学専攻4名、計9名である【4(4)-16-6:表31】。授与した専攻からみても、日本文学専攻と史学専攻(日本史専修、考古学専修)等が運営している「複眼的日本古代学教育研究の人材育成プログラム」による博士取得支援の効果が上がっているといえる。</p> | <p>課程博士の学位授与件数は、2009年度10件、2010年度8件、2011年度4件、2012年度10件となっており、2013年度9件と順調に授与している【4(4)-16-6:表31】。なお、2013年度の課程博士の内訳は、日本文学専攻4名、史学専攻1名、臨床人間学専攻4名の計9名であり、日本文学専攻と史学専攻(日本史専修、考古学専修)等の複数専攻で運営し、博士学位の取得を促す「複眼的日本古代学教育研究の人材育成プログラム」が機能していると言える。</p> <p>臨床人間学専攻臨床心理学専攻では、2013年度の「臨床心理士資格試験」では、受験者10名中9名が合格した。この結果は、同試験の全国平均の合格率(平均62.4%)と比べても、高い合格率である。大学付属機関である「心理臨床センター」で行われる実習科目等の優れた教育内容、教育方法がこの学習成果を生み出している。</p> | <p>【博士前期・修士課程】 今後も課程博士の学位授与件数を維持するべく、「複眼的日本古代学教育研究の人材育成プログラム」の充実を図る。 また、臨床人間学専攻臨床心理学専攻の「臨床心理資格試験」の高い合格率は、大学付属機関である「心理臨床センター」での実習等を含めた教育内容、方法による成果につき、今後も活用する。</p> <p>【博士後期課程】 博士後期課程では、課程博士論文提出までに、研究科が定めたいくつかの要件をクリアする必要があり、標準修業年限ではそれらをクリアできずに、博士論文未提出のまま在籍が長期化してしまう場合もある。よって早期修了に向けた指導体制の強化を、研究科として行う必要がある。</p> | <p>【博士前期・修士課程】 就職・進路形成に関するガイダンスを4月のオリエンテーション時に実施し、院生の進路選択に対する意識向上を促している。</p> <p>【博士後期課程】 博士号の取得については、博士論文の質の確保という観点から複数の教員による集団指導体制を基本とする。</p> | <p>①現状の説明 資料4(4)-16-4 文学研究科大学院生研究業績調書 資料4(4)-16-5 日本古代学6号、表紙・目次 資料4(4)-16-6 明治大学データ 表31 資料4(4)-16-7 2013年度文学研究科卒業生進路先一覧 4(4)-16-8 2013年度文学部・文学研究科 学術研究発表会次第</p> | |
| c | <p>●学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)を実施しているか 【約400字～600字】</p> | <p>【学生の自己評価】 学生の自己評価として、博士前期課程・博士後期課程ともに、大学院全体の取組みとして、修了予定者に対し、カリキュラム或いは学生支援体制に対する「満足度調査」を実施し、各種の取組みの改善に繋げている【4(4)-16-9】。</p> <p>【卒業後の評価】 毎年開催される企業と大学との就職懇談会に大学院執行部メンバーならびに学部役職者が出席し、意見交換により教育成果の把握に努めている。これに関するかぎり、反応はおおむね良好である。</p> | | <p>院生協議会の代表者との意見交換会の機会を持ち、カリキュラム、諸制度の改善に向け、文学研究科固有の課題の早期発見に繋げる必要がある。この課題は前年度より変わっていない。また修了者へのアンケートを充実させ、進路実績データの精緻化をはかる必要がある。</p> | <p>院生協議会の代表者との意見交換会の機会設定に向け、検討に入る。また修了者へのアンケートを充実させ、進路実績データの精緻化をはかり、それに基づいて検討をすすめる。</p> | <p>①現状の説明 4(4)-16-9 修了者アンケート結果【文学研究科】</p> | |
| (2) 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか | | | | | | | |
| a | <p>◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。 ◎学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあつては、学位に求める水準を満たす論文であるかを審査する基準(学位論文審査基準)を、あらかじめ学生に明示すること。 【約200字】</p> | <p>課程別に「学位取得のためのガイドライン」を定め、修了要件の他、学位請求までのプロセス、論文に求められる要件(「論文審査基準」)、学位審査の概要(審査・合否判定プロセス)等を明示している。これらは大学の公式ウェブサイト上で公開している。また専攻ごとに博士学位請求論文受理に関する内規を作成し、その受理にあつては専攻で厳正に判断されている。修了要件の判定は各専攻・専修での集団的審査を経て、最終的に研究科委員会承認されている【4(4)-16-10:9～14頁・15～25頁】【4(4)-16-11・12】。</p> | | | | <p>①現状の説明 資料4(4)-16-10 2014年度大学院履修の手引き文学研究科(大学院シラバス抜粋)、9～14頁及び15～25頁 4(4)-16-11 文学研究科ホームページ「修士学位取得のためのガイドライン」:URL http://www.meiji.ac.jp/dai_in/arts-letters/master/index.html 4(4)-16-12 文学研究科ホームページ「修士学位取得のためのガイドライン」:URL http://www.meiji.ac.jp/dai_in/arts-letters/doctor/index.html 資料4(4)-16-13 博士学位請求論文受理に関する各専攻内規</p> | |
| b | <p>●学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。 【約600字】</p> | <p>【博士前期・修士課程】 修了には必要な単位修得を要件とし、指導教員による研究を受け、修士論文を作成することで学位を授与する。学位授与件数は、ここ数年にわたり50件程度であり、2013年度は54件であった。修士学位請求論文の評価については、指導教員を主査、他の2名を副査として審査を行っている。論文審査および面接試問を行い、100点満点の70点以上を合格として、最終的には研究科委員会において判定する。</p> <p>【博士後期課程】 修了に必要な単位は24単位とし、さらに所定の研究指導を受けたものが学位請求論文を提出できる。学位授与件数は、コンスタントに輩出しており、2013年度に博士9件である。博士学位の請求にあつては「査読付論文を含めて学術誌等に3本以上の掲載」等を定めた内規を専攻ごとに定めている。博士請求論文は提出後に「公開発表会」を義務付けており、審査に際しては副査に学外者(1名以上)を加えることとし、これにより透明性・客観性を高め、最終的に研究科委員会構成員の過半数の出席と出席者の3分の2以上の賛成をもって、研究科委員会において合否を判定している。さらにその博士論文は「大学院委員会」にて承認を経ている。</p> | | | | | |

第5章 学生の受け入れ

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | 改善を要する点 | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|---|---|--|--|------------------------------------|---|----------------------|---|
| | | | | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 | 「改善を要する点」に対する発展計画 | | |
| ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | C列の点検・評価項目について、必ず記述してください | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | (中長期的対応) H列にあれば記述 | Alt+Enterで箇条書きに |
| (1) 学生の受け入れ方針を明示しているか(「AP」の全文記述は不要です) | | | | | | | |
| 求める学生像の明示及び当該課程に入学するに当たり修得しておくべき知識等の内容・水準の明示及び社会への公表 | | | | | | | |
| a | ◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること。 ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。 【約400字】 | <p>入学者の受入方針は次のとおり定め【5-16-1】、その公表については「学生募集要項」及び大学ホームページにおいて公開し、受験生を含む社会に幅広く公表している【5-16-2～3】。また、博士前期・修士課程に関しては、5月末に実施する大学院進学相談会において、進学を考える学生や社会人に直接の面談によって詳細丁寧な説明を行なっている(2013年度は延べ72名の来談)。</p> <p>【博士前期課程・修士課程】 入学者の受入方針において、求める学生像として次の2点を定めている。</p> <p>① 世界・社会のヴィヴィッドな動向への幅広い視野と関心、及び身近な日常的事象に対する鋭敏な感性と問題発見能力、常識に囚われない「自明性」を懐疑し得る自由な着眼力、大胆な仮説に基づき、これらを緻密かつ誠実に分析・考察し得る論証能力、さらには専門分野だけに偏らない深い教養、また、以上のことを的確に表現し得る高度に洗練された言語能力等を兼ね備えた者</p> <p>② 将来、専攻領域及び関連分野の高度な専門的知識と確かな技能を持って、地域社会及び国際社会の一員として活動する意志と覚悟を有する者</p> <p>また、入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準として、次の2点を定めている。</p> <p>① 学士課程において修得すべき思考力、知識、語学力を十分に備えていること</p> <p>② 自分を世界・社会のなかに位置づけ、幅広い教養を得ながら、自分自身で追究し、またその成果を文章に表すことができること</p> <p>【博士後期課程】 入学者の受入方針において、求める学生像として次の2点を定めている。</p> <p>① 当該専攻・専修博士前期課程修了のために必要とされる知識と思考力と語学力を備え、指導教員が必要水準以上と判断した修士号請求論文を提出し論文審査に合格した者、あるいはそれと同等の能力を所有する者</p> <p>② 博士学位請求論文提出の意欲を持ち、そのために必要な高度な学習や実習に加えて、海外への長期留学、各種学会での発表、紀要論文等の執筆を着実に遂行することができ、かつ、世界的水準での自立した研究者、教育者として、日本及び海外諸国で貢献できるまでの困難な道程を歩む気概と具体的戦略図を持った者</p> <p>また、入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準として、次の2点を定めている。</p> <p>① 博士前期課程修了のために、必要とされる知識、思考力、および言語能力(語学力を含む)を備え、修士号論文審査の合格を有していること</p> <p>② 博士学位論文提出に向け、さらなる研究への探求とそれを進めるための技術的なスキル、目的遂行能力を備えていること</p> | | | | | ①現状の説明 資料5-16-1 2014年度大学院便覧(法学研究科、商学研究科、政治経済学研究所、経営学研究所、文学研究科、情報コミュニケーション研究科、教養デザイン研究科)「入学者受入」「教育課程編成・実施」「学位授与」方針、85～86頁(既出4(1)-16-2) 資料5-16-2 2014年度明治大学大学院入学試験募集要項 文学研究科 5-16-3 大学ホームページ「教育情報の公表：アドミッション・ポリシー、入学者数・在学生数、卒業・就職状況等」:URL http://www.meiji.ac.jp/koh/disclosure/student/index.html |
| 障がいのある学生の受け入れ方針と対応 | | | | | | | |
| b | ●該当する事項があれば説明する 【約200字】 | 障がいのある学生に入学機会を与える事につき、大学の責任の下、本研究科は特に出願の際に当該学生より特別の手配の要望があった場合には、それに積極的に対応する旨、入試要項に記載してある。ただし、より重要なのは、受け入れ後の体制が入学者の希望ないしは予測に合理的な範囲で用意できていることであると考え。本研究科は、障がいをもった学生の受け入れ方針を特に対外的に掲げないが、対外的にもうけられた進学相談の機会に折にこの点に関する質問を積極的に受け入れられるように用意している。 | | | | | |
| (2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか | | | | | | | |
| a | ●学生の受け入れ方針と学生募集、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。(公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか、必要な規定、組織、責任体制等の整備しているか) 【約400字】 | <p>アドミッション・ポリシーで示されている諸能力を備え、専門研究者・高等教育者・知識教養社会人として将来活動する覚悟のある者を、多様な受験生の様態に対応して選抜するため、博士前期・修士課程で5種(学内選考・一般入学・留学生・社会人・飛び入学)、博士後期課程において2種(一般入学・留学生)の入学試験実施しており【5-16-2】【5-16-4】、そのために各専門分野の専攻・専修試験責任者チームが本研究科委員会執行部の運営管理もと入学試験の体制を構築している。業務上の細部や採点方法などについては、従来の慣例に基づき受験者の匿名性を確保した上で、言語能力試験・専門知識試験のそれぞれについて公正な採点・評価を行っている。</p> <p>【博士前期課程・修士課程】 アドミッション・ポリシーに基づき、9月中旬に実施するⅠ期と2月中旬に実施するⅡ期の年2回にわたり「一般入学試験」と「外国人留学生入学試験」を、またⅡ期においてはさらに「社会人特別入学試験」、「飛び入学試験」を実施している。</p> <p>例年7月上旬に実施している「学内選考入学試験」に関しては、学部教育と大学院指導を一貫させて、学内の優秀な人材を育成するため、2010年度入試より開設し、面接試問の結果で合格者を決定している。</p> <p>【博士後期課程】 アドミッション・ポリシーに基づき、年1回Ⅱ期の時期に、「一般入学試験」「外国人留学生入学試験」を実施している。修士論文評価、筆記試験と面接試問に鑑みて合格者を選抜している。</p> | 大学院進学相談会においては、文学研究科のすべての専攻・専修のブースを開設し、教員と在籍院生の対応によって、アドミッションポリシーを十分に説明し、さらに各専攻・専修の教育指導の状況そして入学試験のシステムを解説することによって、進学希望者の問題関心を確認した上で、志望する専攻・専修とのミスマッチを防ぎ、本人の意欲と能力と最大限に発揮できる適切な分野に導いて、多様な専攻・専修からなる文学研究科にふさわしい優秀な入学者の獲得に貢献している。とくに学内に関し3年生の参加を呼び掛けて、早くから大学院進学のための具体的なイメージを抱かせることに寄与している。文学研究科への相談者は他の研究科を圧倒して高い。 | | 専攻専修単位で、在籍院生と学部学生との交流の幅を広げ、合同の研修や発表会などの企画を通じて、学生の関心と意欲を刺激して、進学相談会の参加へと導き、優秀な学生が大学院での学問の在り方や教育指導の方針について、具体的な情報に接する機会を増やすべきである。 | | ①現状の説明 資料5-16-2 2014年度明治大学大学院入学試験募集要項 文学研究科 資料5-16-4 2015年度文学研究科<博士前期課程・修士課程>「学内選考」方式による入学試験実施要項 |

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 | |
|---|---|--|----------------------|--|--|--|---------------------------------------|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | | (中長期的対応) H列にあれば記述 |
| (3)適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適切に管理しているか | | | | | | | |
| 収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 | | | | | | | |
| a | <p>◎部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である。(修士・博士・専門職学位課程)</p> <p>【約200字】</p> | <p>【博士前期・修士課程】 2014年度5月1日の収容定員160名に対する在籍者数は131名（在籍学生比率は0.81）であり、2013年度より減少した。また、入学定員80名に対する入学超過率過去5年間の平均は0.76である。</p> <p>【博士後期課程】 収容定員63名に対する在籍学生者数は95名で在籍学生比率は1.5であり、13年度の1.7よりは改善したが、いまだ適切ではない。また、入学定員21名に対する入学超過率過去5年間の平均は、0.75である。</p> | | <p>博士前期課程入学者が減少傾向にあるので、原因を究明する必要がある。博士後期課程の在籍学生比率を是正するため、博士後期課程の早期修了に向けた研究科としての様々な支援が求められる。大学院への進学を早くから促すため、学部の初年度において入学者の受入方針を含めた文学研究科の概要を説明することが望ましい。</p> | | <p>博士後期課程在籍学生に特化し、大学等の研究職を志望する院生に対する就職キャリア支援事業をさらに充実させる。具体的には、助教経験者が専任教員へ就職する例が増えているのを踏まえ、助教のポストを増設することを検討すべきである。</p> | <p>①現状の説明 資料5-16-5 明治大学データ表36</p> |
| 収容定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応 | | | | | | | |
| b | <p>◎現状と対応状況</p> <p>【約200字】</p> | <p>【博士前期・修士課程】 2014年度5月1日の収容定員に対する在籍学生比率は0.81である。入学定員に対する入学超過率は、2013年度0.69から2014年度0.76へ改善した。入学者数さらなる増加と留籍者の早期修了を促す取組みを行うべく、学部生及び修士生の就職キャリア支援行事の参加を促している。</p> <p>【博士後期課程】 在籍学生比率は1.5であり未だ適切な数値ではないが、昨年度の1.7よりは改善した。留籍者数の解消にあたっては、すみやかな学位取得こそが、問題解決の方法であるとの認識から、学生支援行事（競争的資金の獲得に関するガイダンス、就職支援カウンセリング等）についてさらに検討を重ねる。</p> | | <p>博士前期・修士課程での入学定員に対する入学超過率は、2013年度0.69から2014年度0.76へ改善した。しかし、日本文学専攻、史学専攻日本史学専修、臨床人間学専攻臨床心理学専修に受け入れ学生数が集中しており、入学超過率が0.5未満の専攻も2専攻存在する。専攻・専修間のアンバランスの是正が必要である。博士後期課程の収容定員に対する在籍学生比率もさらに改善する必要がある。</p> | | <p>大学院進学相談会を開催し、その席で専攻専修毎に個別ブースを設け、進学相談をきめ細やかに実施している。また、在籍院生の早期修了を促すための就職キャリア支援行事を複数回企画する。これにより、博士前期・修士課程の専攻・専修毎の入学定員に対する入学超過率のアンバランス、及び、博士後期課程の収容定員に対する在籍学生比率を是正する。</p> | <p>資料5-16-5 明治大学データ表36</p> |
| (4)学生募集及び入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか | | | | | | | |
| a | <p>●学生の受入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。</p> <p>【400字】</p> | <p>入学者の受入方針及び入試要項は、研究科委員会において検証している。なお、2013年度は10月の研究科委員会にて審議・承認を行っている【5-16-6】。</p> | | | | <p>①現状の説明 5-16-6 第3回文学研究科委員会議事録、2013年10月28日開催、審議事項6「文学研究科3ポリシーの改正について」《既出4(1)-16-9》</p> | |

第6章 学生支援のうち修学支援及びキャリア支援

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 |
|---|---|--|----------------------|------------------------------------|----------------------|---|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「改善を要する点」に対する発展計画 | | |
| | | | | (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | (中長期的対応) H列にあれば記述 | |
| ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | C列の点検・評価項目について、必ず記述してください | | | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | | Alt+Enterで箇条書きに |
| (1) 学生支援に関する方針を定め、学生への修学支援は適切に行われているか | | | | | | |
| a | ●修学支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】 | 修学支援については方針こそ明文化してはいないが、研究科委員会において留年者・休退学者の報告・共有を行っており【6-16-1】、当該専攻・専修で個別に修学支援を行っている。 また障がいのある学生に対する対応は、今のところ特に必要とされていないため、方針が定められていない。 外国人留学生に対する対応方針は、チューター制度以外は特に共有されていない。 | | | | ①現状の説明 資料6-16-1 2014年度第2回文学研究科委員会議事録、2014年5月26日開催、審議事項8「学籍異動について」 |
| b | ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】 | ① 留年者、休退学者の状況把握と対応：退学者数は毎年平均して約20名である【6-16-2】。退学理由の内訳は満期退学、少数の「経済的理由」のほか、「一身上の都合」が半数を占める。「一身上の都合」で退学を申し出る院生については、大学院事務室でヒアリングを行っている。人文科学では研究に時間がかかるため、結局在学期間に博士論文を完成させることができず、よりレベルの高い論文博士を目指す者や、博士学位取得前に定職に就き、多忙のため大学院にいらなくなった者など、積極的な理由が少なからずあることが判明した。 ② 障がいのある学生に対する措置・仕組み：定まっていない。個別対応に留まるが、その必要性がまだ生じていない。 ③ 外国人留学生に対する措置・仕組み：海外の協定校からの交換留学生に対しては修学・生活支援の意味合いもあって、チューター制度【6-16-3】を導入している。また論文作成における日本語基礎力を修得・向上させるため、「日本語論文指導講座」を開設している【6-16-4】。 ④ 学生支援の適切性の確認方法：留年者・休退学者に対しては、事務手続き面では事務局が、内容面では執行部および専攻・専修責任者が適切性を確認している。チューター制度の適切性に関しては、問題が生じた場合のみ、同様に確認している。 | | | | ①現状の説明 資料6-16-2 明治大学大学院文学研究科異動者一覧表 2013年4月1日～2014年3月31日 資料6-16-3 外国人留学生特別指導実施要項 資料6-16-4 明治大学大学院2014年度日本語論文指導講座について【大学院外国人留学生対象】 |
| (2) 学生の進路支援は適切に行われているか | | | | | | |
| a | ●進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】 | 進路支援については方針こそ明文化してはいないが、毎年、同支援の実施計画を執行部が作成し、研究科委員会において報告/共有を行っている【6-16-1】。 | | | | 資料6-16-1 2014年度第2回文学研究科委員会議事録、2014年5月26日開催、審議事項5「2014年度就職・キャリア支援に関わる事業計画について」 |
| b | ◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】 | 【就職支援】 キャリア支援活動については、「文学研究科・就職キャリア支援講演会」を毎年実施している。2012年度は受講者が少なかった(9名)現実を反省し、2013年度は「第1回就職キャリア支援講演会」を新入生オリエンテーションと同日に開催したため、新入生全員に加え、在学生も多く参加した【6-16-5】。 【研究者支援】 研究科独自ではないが、助手制度は博士論文執筆への援助として、また助教制度はPD研究者支援の性格を多分に含むものとして運用している。2013年度は助手22名、助教3名である。 | | | | 資料6-16-5 2013年度明治大学大学院文学研究科 新入生ガイダンス第一部式次第 |

第10章 内部質保証

| 点検・評価項目 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | 根拠資料 |
|--|---|-------------------------|----------------------|--|--|---|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | |
| <p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p> <p>C列の点検・評価項目について、必ず記述してください</p> | | | | | | |
| <p>(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか</p> | | | | | | |
| <p>a ◎自己点検・評価を定期的に実施し、公表していること 【約400字】</p> | <p>毎年、自己点検・評価全学委員会による基本方針に従い、自己点検・評価を行っている。またそれらの点検・評価活動の後、「学長方針」に基づき「年度計画」を作成している。また「2012年度自己点検・評価報告書」を作成した。同報告書は、その後全学の手続きを経て、ホームページで公開している【10-16-1】。</p> <p>なお、教員を含んで開催された本項目に関わる主なミーティングは以下の通りであり、自己点検・評価活動との連動を一層図るため、専攻主任・専修責任者にも、さらに積極的に報告書の作成参加を要請する。2014年度から、自己点検委員会において会議資料を大幅に充実させ、PDCAサイクルに対する目的意識のさらなる共有に努めている。</p> <p>(委員会等の名称 主なメンバー、人数 開催日等)：</p> <p>(1) 専攻・専修責任者会議 研究科長，大学院委員，各専攻・専修責任者（全16名） 研究科委員会開催の前後に適宜開催している</p> <p>(2) 執行部会議 研究科長，大学院委員，担当事務 随時開催</p> <p>(3) 文学研究科懇親会 2014年4月4日</p> <p>(4) 調査委（学生からの申し出案件を調査する研究科内委員会）。 2013年度は2014年3～4月に掛けて9回開催。 また大学院全体で、修了生向けにアンケートを行っている。</p> | | | | | <p>①現状の説明 10-16-1 文学研究科ホームページ「学部等自己点検・評価報告書」 URL:http://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/self/2012/6t5h7p00000h8e60-att/15.pdf</p> |
| <p>(2) 内部質保証システムに関するシステムを整備し、適切に機能させているか</p> | | | | | | |
| <p>a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織（評価結果を改善）を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ● 文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】</p> | <p>① 毎年度、5～6月にかけて文学研究科では自己点検ならびに年度計画書を担当委員会で作成し、研究科委員会で審議している。</p> <p>② 上記期間にPDCAサイクルの実質上の仕事は集中している。</p> <p>③ PDCAサイクルを機能させる期間を短く並行して行うことで、これまで集中的作業を行ってきた。</p> <p>④ 自己点検・評価報告書の作成にあたり、特に「発展計画」は、前年度の「年度計画書」を参考にしている。また自己点検・評価報告書の作成後に、「学長方針」に基づく「年度計画書」を作成している。「学長方針」には、前回の自己点検・評価報告書についての全学委員会のコメントや評価委員会の評価が反映されており、PDCAサイクルが整備されている。</p> <p>研究科内の課題については専攻専修責任者会議、奨学金制度については拡大奨学金委員会が設置されており、現状をより具体的に把握し、有効な改善策を策定すべく、活動している。</p> <p>前回認証評価時の助言・指摘事項や自己点検・評価 評価委員からの指摘事項については、2011年度より第2期「改善アクションプラン」【10-16-2】にて国際化の推進を進めており、改善指標を定めて進捗管理を行っている</p> | | | | | <p>①現状の説明 資料10-16-2 第2期「改善アクションプラン（3カ年計画）」</p> |